東京日々新聞

八百八十五号

きのふの昔く・洗濯おらん仙堂よちよつきりやちまて坐の子・兎でもあれる
ゑでらしと・爺ーと婆ーとあつさと・其まさ近所ゴひとり住ひ・狸婆アがころ〳〵と・
此爺さんへ・狸汁・一ちわ・喰せる居膳も・竟あい・班と柿のさと・知らぬ・皺手と・握り飯ゴ・

損得おしと舌切雀・

夫ゑらチョツ〳〵と・御宿と
たのね・枯木ゴ花と・咲せる・
厄あゴ・祓ゴも・本妻の・げんどん・婆アの
目ゴさん入り・あゴ・歯かゴ・ひちく・山・
背中の・柴ほど・胸をバ・厭ゴ・薬椒・味噌の・辛らき
目ゴ・あいさん・まへ・ごよの・素・囚子と・日本一の・趣向と
考へお供ゴ・まる・現在の・妖も・心い・鬼ヶ島・納戸の
岩屋へ・忍び入り・起んとも・とゑ・とゑと・重い
音・笹ゴ・ヨ・ゑ・ゴ・あ・兎・とのせ・ゴ・動ゴ・せ・ず・
其間ゴ・爺ーゴ・何・ゴ・へ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・
夜着・ゑ・ゴ・の・ゴ・け・ゴ・ゑ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・
児・起・打・出・ゴ・宝・物・手・ゴ・入・ゴ・ら・ゴ・と・笑・栗・の・
毬・の・作・り・の・木・太・刀・ゴ・バ・洞・の・奥・ゴ・で・神
辺・ゴ・で・ゴ・り・ 献・ゴ・仕・ゴ・ら・ゴ・る・夫・ゴ・て
いちゲさら・ゑ・さ・ゴ・ら・ゴ・豆・馬・ゴ・ー
ーき・ゴ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・ゴ・ゑ・ゴ・ら・

霞亭乙湖述

一蕙齋芳幾

人形 甲一 具足屋 横辺影栄